

氏名 西 本 弘

授与した学位 博士
 専攻分野の名称 医学
 学位授与番号 博乙第 2862 号
 学位授与の日付 平成7年 3月25日
 学位授与の要件 博士の学位論文提出者

(学位規則第4条第2項該当)

学位論文題目 Immunolectron Microscopic Localization of MHC Class 1 and 2
 Antigens on Bile Duct Epithelial Cells in Patients with Primary Biliary
 Cirrhosis(原発性胆汁性肝硬変における胆管上皮細胞の MHCクラス1抗原およびクラス2抗原の
 局在に関する免疫電顕的検討)

論文審査委員 教授 太田 善介 教授 中山 睿一 教授 原田 実根

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

原発性胆汁性肝硬変（以下PBC）症例における肝組織内胆管上皮細胞のMHC抗原の発現に関する検討を、PBC7例の肝生検組織を用いた酵素抗体間接法によりおこなった。その結果、PBCにおける胆管上皮細胞ではMHCクラス1抗原の表出が高まっていること、MHCクラス2抗原では、HLA-DR抗原だけでなく同一の細胞にDQ抗原、DP抗原がともに発現していること、HLA-ABC抗原、HLA-DR抗原の電顕的検討によりこれら抗原が細胞の基底膜面、細胞隣接面および細胞質内の小胞体に局在することを明らかにした。以上よりこれら抗原がPBC胆管細胞内でつくられ細胞表面に発現していることが示唆された。

cytotoxic T lymphocyte による胆管上皮細胞障害には、その標的細胞上のMHCクラス1抗原の表出が必要であるが、胆管上皮細胞のHLA-ABC抗原の表出の増加は、胆管上皮細胞障害が、T cell cytotoxicity によって生じていることを支持するものと思われる。またクラス2抗原の発現は、橋本病における甲状腺細胞やI型糖尿病における膵β細胞などでもみられることより、胆管細胞障害にクラス2抗原を介する自己免疫反応が関与している可能性も推測された。

なお、本論文は共著論文であり、共著者の協力を得て完成したものである。

論文審査結果の要旨

本研究は原発性胆汁性肝硬変（以下PBC）症例における肝組織内胆管上皮細胞のMHC抗原の発現に関する検討を、PBC7例の肝生検組織を用いた酵素抗体間接法によりおこなったものである。その結果、PBCにおける胆管上皮細胞ではMHCクラス1抗原の表出が高まっていること、MHCクラス2抗原では、HLA-DR抗原だけでなく同一の細胞にDQ抗原、DP抗原がともに発現していること、HLA-ABC抗原、HLA-DR抗原の電顕的検討によりこれら抗原が細胞の基底膜面、細胞隣接面および細胞質内の小胞体に局在することを明らかにした。以上よりこれら抗原がPBC胆管細胞内でつくられ細胞表面に発現していることが示唆され、また胆管細胞障害にクラス2抗原を介する自己免疫反応が関与している可能性も推測した。これらは新知見である。よって本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。